明治大学

世界へ発信する大学 農学部の飽くなき挑戦

生まれつき膵臓（すいぞう）のない豚を使って、人工的に膵臓を作るための方法を開発――。再生医療の礎となるであろう画期的な研究成果が、今年2月、世界の科学界をにぎわせた。未来の医療技術をまた一歩進めることになったこのクローン技術研究の第一人者が、明治大学農学部の長嶋比呂志教授である。

130年以上の伝統を誇る明治大学は、法・商・政治経済・文・理工・農・経営・情報コミュニケーション・国際日本・総合数理学部の全10学部を有する総合大学として知られる。都心の駿河台・和泉キャンパス、緑豊かな生田キャンパスに加えて、今春には中野キャンパスを新設。「世界へ発信する」大学を目指し、それぞれの分野で日々、教育・研究を深めている。冒頭のクローン技術で注目を集めた農学部はその好例だ。

「私たちは、クローン技術、いわば〝動物のコピー〟を作る技術を駆使し、医学や医療へ貢献することを目指しています。例えば、クローン豚に遺伝子操作を加えれば、様々な疾患を豚の体内に再現することができる。臓器の大きさや構造がヒトと近い豚を医学研究に用いることで、疾患の仕組みや治療法の解明が進んでいるのです。将来的には、とくに小児の難病の解明に役立てられればと願っています」（長嶋教授）

世界の第一線で研究を続けつつ、農学部で教壇に立つ長嶋教授は、クローン豚や遺伝子改変豚といった最先端の研究にも、あえて積極的に学生を参加させるという。関係者との打ち合わせや会議の場に同席させることも珍しくない。

「自分の取り組んでいる学問が社会でどのように役立つのか。どれだけの人が必死に向き合っているのか。それを肌で感じ取った学生は、研究に向き合う真剣さが明らかに変わります」

将来歩む道を決めるのは、それまでに出会った人や見聞きしたものの蓄積だと思う、と長嶋教授。自らの専門分野を極めることの覚悟と使命感は、こうして多くの明大生へと受け継がれてゆくのだ。

駿河台キャンパスのリバティタワー。主に文系学部の3・4年生が学ぶ

強みは幅広い学びと充実の教育研究設備

世界の科学界を先導する明治大学の高い研究力を後押ししているのが、先進の施設や設備だ。

例えば、生田キャンパスの「植物工場基盤技術研究センター」には、人工照明と無菌的空調で、無農薬・無洗浄の野菜を生産できる植物工場を備えている。将来の食料の安定供給や農業の産業化を目指して、農学部・理工学部・商学部・経営学部などが学部横断的に、次世代の農業のあり方を研究している。

最新の設備を備えた黒川農場（神奈川県川崎市）

昨年4月には、生田キャンパスのそばに多目的な都市農場として「黒川農場」を開場。先端技術による温室での栽培システムや、太陽光・風力・バイオマスなどの自然エネルギーを使った環境保全型システムなどが整っており、〝未来型アグリエコファーム〟として、様々な実習に活用されている。

また、幅広い学問領域の知識や技術を集結させて、様々な研究を深化させることができるのは、総合大学ならではの強みだという。

「例えば今、理工学部の相澤守教授と取り組んでいるのが、砕けてしまった骨を修復する充填（じゅうてん）剤の研究です。農学部で研究用の豚をつくり、理工学部で骨の修復プロセスを研究する――。キャンパス内で、新たな医学貢献の可能性が広がっていくのです」

誇れる財産を身につけグローバルに活躍する

これからの社会を担って活躍するためには、分野を問わず、グローバルな教養と感覚が欠かせない。明治大学でも、40の国と地域、214の大学と協定を結び、様々なかたちで海外での学びをバックアップしている。長嶋教授は、海外留学を一層充実させるためにも、日本での日々の研究を大切にしてほしい、と説く。

「海外に身を置くだけでも、得られることはたくさんあるでしょう。でも、専門分野をきちんと身につけていればそれは大きな強みとなり、学びの幅も広がります。例えば理系なら、日本の研究水準は世界のトップレベル。日本で学んだことは、どこに行っても誇れるピカピカの〝財産〟です。ぜひ、それを携えて、堂々と世界へ羽ばたいてほしい。真にグローバルに活躍するとは、そういうことだと思います」

いまは、大学へ進学することに、明確な意義や目的を見つけられないと悩む高校生も多い。

「そんな人は、自分のしたいことが〝見つかりそう〟な大学を選べばいいんです。大事なのは入学後。先生や先輩の話を聞いて回ったり、研究室を訪ねてみたりしてもいい。自分から動くことで、アンテナに引っかかる何かが必ず見つかるでしょう」

では、大学で伸びる人とそうでない人の違いはどこにあるのだろうか。

「大学は、専門性の高い職業人になるための準備の場です。自分は将来どうありたいか、いまは何をすべきなのか――。そのことに早く気づいた学生が、一歩上の世界へ抜け出していく気がします。日々の実験一つとっても、取り組む意識が変わりますから、ぐんぐん力をつけていきますよ」

明治大学を志す学生へ、長嶋教授は力強いメッセージを贈る。

「自分の人生で〝何か足跡を残そう、社会のためになることをやろう〟という熱い志を持っている人は、ぜひ明治大学に来てほしい。農学部以外でも、世界的に競争力のある分野はたくさんあります。社会的な使命を実感しながら、先端研究に取り組めるのは、明治大学ならではの魅力だと思います」

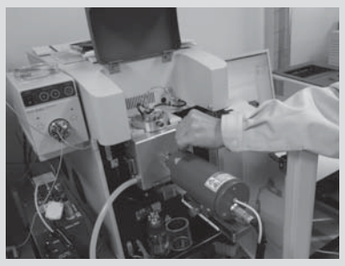
農学部　長嶋比呂志教授

TOPICS 1 タイに国際教育拠点を開設 日本と東南アジアの懸け橋に

今年5月、タイ・バンコクに「明治大学アセアンセンター」がオープンした。今後は、センターを拠点に、シーナカリンウィロート大学、チュラロンコン大学、カセサート大学などタイの大学を中心に、ASEAN各国のトップレベルの大学との共同研究や交換留学、インターンなどを実施。国際的な学びや交流を通して、たくましい「現場力」と「専門性」を有する実務型リーダーを育成することを目指している。さらなる経済発展が見込まれる東南アジアと日本との懸け橋となる人材が、近い将来、明治大学から誕生することだろう。

TOPICS 2 大学の知的資源を有効活用 地元の新技術・新事業に貢献

川崎市の生田キャンパスには、明治大学の知的資源や高い技術力を有効活用するための「地域産学連携研究センター」がある。ここでは、神奈川県を始めとする近隣地域を中心に、新技術の創出や起業の支援、共同研究、セミナーの開催など、様々な連携・交流が進められている。昨年4月には、センター内に「テクノロジーインキュベーション室」を開設。エレクトロニクス・バイオ・化学分野に役立つ7種類の先進設備を整え、地域の研究開発を強力にバックアップしている。



TOPICS 3 政治経済学部から世界へ 充実の留学促進プログラム

明治大学は、文部科学省が実施する「平成24年度グローバル人材育成推進事業」の採択校の一つ。現在、政治経済学部を中心に、先進的な留学促進プログラムを展開している。

例えば短期プログラムでは、カリフォルニア大学バークレー校（アメリカ）、リヨン政治学院（フランス）、延世大学（韓国）といった世界の名だたる大学で優秀な学生たちと競い合いながら学ぶことができ、卒業単位にも認定される。ほかに、大学に在籍したまま最長1年間留学できる「協定留学」制度、日本にいながら英語で政治経済学部の専門科目を学べる「トップスクールセミナー」など、多彩なプログラムを実施している。

一層深化するグローバル社会を見すえ、今後は明治大学の全学部で、さらなる留学促進を図っていく。

一人ひとりの「個」に合わせたキャリアデザインを、4年間を通じて徹底的にサポート!

就業力

4年間のキャリアデザイン ※2013年度

キャリア形成（1～2年）
- ○学業 ○課外活動
- ○キャリア相談 ○インターンシップ

就職活動（3年・大学院1年～4年・大学院2年）
- ○求職登録 ○自己分析・自己理解
- ○業界研究、企業研究・団体研究 ○筆記試験対策 ○企業（団体）にエントリー
- 選考・内々定
- 筆記試験／面接
- 会社説明会参加
- エントリーシート記入および提出

1～2年
- キャリアデザイン講座
- OB・OGによる仕事研究セミナー
- 産学連携仕事体感プログラム
- 全学版インターンシップ
- 公務員ガイダンス
- 職務適性検査

3年・大学院1年
- 5月 ゼミ・サークルなどでのグループ相談会（通年）
- 5月 マスコミ就職セミナー
- 6月 プレ就職・進路ガイダンス
- 6月 公務員ガイダンス
- 8月 全学版インターンシップ
- 9月 工場・事業所見学会（理系）
- 10月 就職・進路ガイダンス
- 10月 エントリーシート対策講座
- 10月 個人面談
- 10月 就職適性検査・筆記試験対策テスト
- 11月 職種研究セミナー
- 11月 就職活動体験報告会
- 11月 企業見学会
- 11月 WEB就職適性試験対策講座
- 11月 フランス企業フォーラム
- 11月 U&Iターンセミナー
- 11月 グループワーク講座
- 11月 面接対策講座（理系）
- 11月 就職活動直前セミナー
- 12月 業界研究会
- 12月 マナー講座
- 12月 OB・OG訪問会
- 1月 就職活動ガイダンス（理系）
- 2月 学内セミナー（企業・公務）
- 3月 理工学部学校推薦ガイダンス
- 3月 模擬面接会
- 3月 OB・OG懇談会

4年・大学院2年
- 5月 就職活動支援講座
- 6月 学内合同企業セミナー（5・7・9・10月）
- 10月 学内採用選考会

学内セミナーには約800社が参加。面接会も開催される